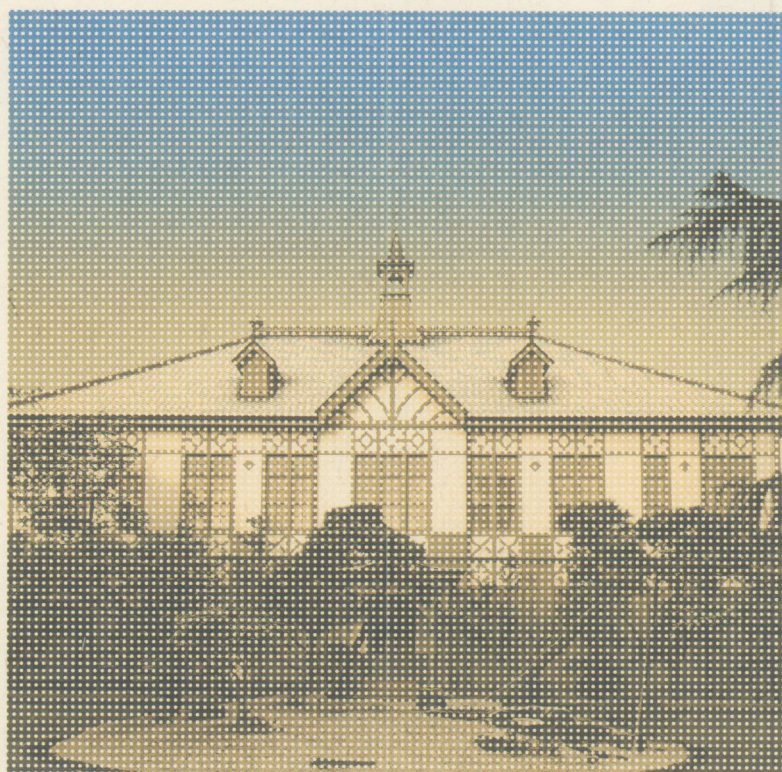


# 奈良女子大学記念館一般公開

重要文化財 旧奈良女子高等師範学校本館



特別展示 **池田小菊の奈良** 志賀直哉に師事した女性教育者



2005.4.29(Fri)-5.5(Thu) 9:00-16:00 入場無料

交通●近鉄奈良駅より北へ徒歩約5分 JR奈良駅より市内循環バス近鉄奈良駅下車 ●お車でのご来学はご遠慮ください。

連絡先●奈良女子大学総務・企画課 〒630-8506奈良市北魚屋東町

TEL.0742-20-3220 FAX.0742-20-3205 記念館HP <http://koto.nara-wu.ac.jp/kinenkan/>

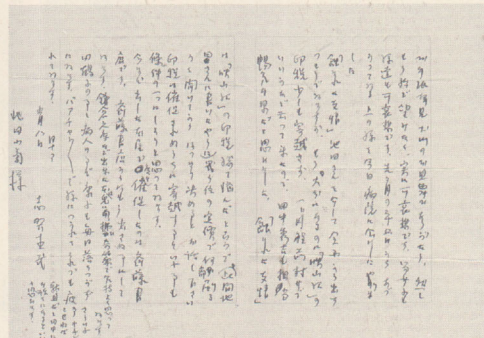
# 特別展示

## 「志賀直哉に師事した女性教育者 池田小菊の奈良」

### ——池田小菊の紹介——

池田小菊(1892・3・15～1967・3・9)は、和歌山県有田郡藤並村大字岡田(現 有田郡吉備町)生まれ、1912年3月、和歌山師範学校を卒業。和歌山県内の小学校訓導を経て、1921年2月、アメリカのパークスト女史のドルトン・プラン(dalton plan)に基づく教育を実践すべく、奈良女子高等師範学校の木下竹次教授に招かれて附属小学校の訓導に就任。1928年3月までの7年間教鞭を執り、死ぬまで奈良女高師に隣接する鍋屋町3番地に独身で住むことになる。その間、1925年には「朝日新聞」に小説「歸る日」を連載したり、個性教育全盛時代の教育実践記録『私の教育記録』や『合科学習の仕方による算術問題の作り方・解き方』、『私の国語教育』などを刊行するとともに、附属小学校が発行した「学習研究」に執筆したり、「伸びて行く」に童話を発表したりして旺盛な教育活動を展開する。

1926年1月18日、小菊は講演を依頼するために、前年4月から奈良市幸町に住んでいた志賀直哉を訪ねる。講演は断られるが、志賀は小菊を伴って、当時水門町に住んでいた武者小路実篤を小菊に紹介する。それ以来、小菊は志賀に師事し、娘達の家庭教師をしながら小説修行に励むことになる。たまたま、プロレタリア文学全盛時代と小菊の修行時代が重なり、思うように作品は発表できなかったが、志賀を慕って奈良にやってきた瀧井孝作、小林秀雄、網野菊、尾崎一雄らと交流する機縁にめぐまれる。1928年には、小林秀雄や志賀一家と箕島へ避暑にでかけたりしたこともあり、文芸復興後の1936年8月、「文学界」に発表した「鳩」は、小林秀雄の推薦であった。志賀が奈良を去る1938年、同じく「文学界」に発表した「奈良」が第8回芥川賞候補になったりもするが、日中戦争で言論統制がきびしくなり、1939年、「改造」に発表予定だった「身中の蟲」が、ゲラ刷りの段階で発禁処分になったこともある。そんな中で小菊文学が開花するのは、「歸る日」を読んで感動していた田中秀吉が大阪で全国書房を創業するに際し、小菊が相談役になって女流作家叢書を企画したからでもあったろうか、小菊の単行本で、女流作家叢書1の『来年の春』(1941・12)、



志賀直哉の小菊あて書簡 (S22.5.8付)

『奈良』(「甥の帰還」「鳩」「縁」「奈良」収録 1943・9)、『東大寺物語・愛と死』(1947・9)などは、すべて全国書房から刊行されている。また、戦後、焼け残った奈良を日本文化復興の基点にすべく、東大寺の上司海雲、画家・杉本健吉、写真家・入江泰吉らと創刊した雑誌「天平」も、志賀直哉と縁のある人々が全国書房から刊行したものであった。「天平」は第3輯(1948・12)で終わるが、小菊はその頃から奈良県婦人協議会の委員長として、戦後の婦人会活動に取り組み、機関紙「婦人奈良」を編集し、1951年10月落成の奈良県婦人会館建設に邁進していく。



東大寺観音院にて直哉と海雲と共に (S24)



婦人会館落成式の日的小菊

また、戦後、焼け残った奈良を日本文化復興の基点にすべく、東大寺の上司海雲、画家・杉本健吉、写真家・入江泰吉らと創刊した雑誌「天平」も、志賀直哉と縁のある人々が全国書房から刊行したものであった。「天平」は第3輯(1948・12)で終わるが、小菊はその頃から奈良県婦人協議会の委員長として、戦後の婦人会活動に取り組み、機関紙「婦人奈良」を編集し、1951年10月落成の奈良県婦人会館建設に邁進していく。

また、戦後、焼け残った奈良を日本文化復興の基点にすべく、東大寺の上司海雲、画家・杉本健吉、写真家・入江泰吉らと創刊した雑誌「天平」も、志賀直哉と縁のある人々が全国書房から刊行したものであった。「天平」は第3輯(1948・12)で終わるが、小菊はその頃から奈良県婦人協議会の委員長として、戦後の婦人会活動に取り組み、機関紙「婦人奈良」を編集し、1951年10月落成の奈良県婦人会館建設に邁進していく。

### ——池田小菊資料寄贈者 武田好昭氏のプロフィール——

京都府相楽郡加茂町生まれ。筆名、生田幸平(1937・10・21～)。小説家、画家。1954年6月から池田小菊に師事する。また、「文藝首都」同人として「絵の旅」(1964・9)「部屋」(1967・11)などを発表したり、三人で同人誌「斜塔」を刊行したこともある。「鳥語」同人としては「珍獣「ガスクン」」(1975・8)などを発表。「月刊奈良」に「西住の衣樹」(1976・1～1976・12)を連載したこともある。1972年5月、「関西文学」で池田小菊特集号を編み、関西文学賞を受ける。

## 入館無料

### 交通

近鉄奈良駅より 徒歩5分  
JR奈良駅より  
市内循環バス近鉄奈良駅前下車  
※お車での来学はご遠慮下さい。

記念館HP <http://koto.nara-wu.ac.jp/kinenkan/>

### 連絡先

奈良女子大学総務・企画課  
〒630-8506 奈良市北魚屋東町  
TEL.0742-20-3220  
FAX.0742-20-3205

